

秋冬ダイコン有機栽培では 被覆栽培により虫害が軽減される

福島県農業総合センター 浜地域研究所
平成17年度農業試験場試験成績概要

1 部門名

野菜 - ダイコン - 栽培型、病害虫防除
分類コード 03-18-18230000

2 担当者

水野由美子・菅田充・中山秀貴

3 要旨

秋冬ダイコンの有機栽培における虫害軽減技術として、防虫ネット、不織布を用いて被覆栽培を行い、虫害の程度を調査した。

- (1) 被覆方法は、 $0.2\text{mm} \times 0.4\text{mm}$ 目合防虫ネットトンネル、不織布トンネル、不織布べたがけとした。播種直後から被覆を開始し、間引き時に一度開閉した後は収穫時まで被覆したままとした。有機質肥料の全量基肥マルチ栽培、無防除で試験した。
- (2) 収穫物の虫害割合は、無被覆ではキスジノミハムシおよびタネバエによる被害が50%発生したのに対し、 $0.2\text{mm} \times 0.4\text{mm}$ 目合防虫ネットトンネルでは17%、不織布べたがけでは10%、不織布トンネルでは3%となり、被覆栽培によって虫害が軽減された。被覆栽培での被害程度の差は、被覆前の土中の産卵状況によるものと推測された。
- (3) 収穫時の地上部の生育は、無被覆区よりも被覆区の方が旺盛であった。地下部の肥大は、 $0.2\text{mm} \times 0.4\text{mm}$ 目合防虫ネットトンネルがやや早く、不織布べたがけおよび不織布トンネルがやや遅かった。
- (4) 以上のことから、秋冬ダイコンマルチ栽培において、 $0.2\text{mm} \times 0.4\text{mm}$ 目合防虫ネットや不織布を用いて被覆栽培を行うことにより、成虫の侵入および作土への産卵が回避され虫害が軽減された。ただし、被覆前の土中の産卵状況によって被害程度は変化する。

4 その他の資料等

被覆材を使用せずに播種時期を遅くすることでも虫害を軽減することができる(H18参考となる成果「秋冬ダイコン有機栽培で虫害が軽減できる播種時期」)。